

書簡

(一) 万寿枝夫人宛 (於米國)

一月五日御認の書狀正ニ落手先づ御安全ニて此上なき大慶ニ存候。

余も身體は健康なる方ニて大分肥えたる乎と被思候。(併し嚴寒の爲時々少し咽喉を傷め候) 顔ハ幾分丸くなり(かつ少々赤く)、鬚は實ハ當地へ着スルト直ニそり落し、過日レビツト氏細君余ニ誠ニ「ハゼ」ナルネットクタイ、(エリカザリ)ヲ呉れられ一層「ボウイ」の如く見るならん。余が鬚をそりしは全く學生となりたれば也。而して余は日本では老人ニ見れたるが當國では幼く見る也。之は余が地位の下りし爲なるべし。瀛車中ても屢々余の年齢を聞しものありて先方にサボウスセシムルト大抵二十六七位ニ見る也。其は外部の嘸なるが余の心も亦た全く青年ニ立ち歸へり自ら書生を氣取り否赤子と思ひ今より大業を創むるの覺悟をなせり。

書 簡
扱て過日來余の Life Work ニ付き種々思考し一時ハ大ニ腦をなやます程熟考致候。素より未だ視察も研究も足らざる故女子教育の方針をも確定甚だ六ヶ敷候へ共、とも角余が歸朝後は一の女大學校を興し之を中心トシ本體として日本全體ニ感化を及ぼす事ニ致度(凡テコレラの事は秘密ニシテ誰ニも御嘸無之極

内密ニ被成下度候) 其、大學トイフハ今米國ニアル女カレッジ或ハ日本ニあるカレッジ(神戸の)の如きものとは異り一種殊別の日本ニ適する専門學校也。今之ニ付き大ニ計畫致居候。先づ此方針で準備致積ニ御座候。其準備ハ過日申上候通の視察と學理研究ト實地の準備也。之ハ余が三年間ニて勉學ト社會學ト視察等ニて實力ハ被得候へ共、何分大學トナレバ余が如何計の教育力量あるやを世人各々知らざれば誠ニ不都合と存候。其が爲大學の學位ヲ得ることが余の爲必要と相考候(コレハレビツトスカッター兩氏同説)。かつ余が今度十分の準備ヲ爲さざれば生涯學ぶの時ハ無之と存候。再ビ渡米ハ六ヶ敷日本ニて脩學のみの時を得ルハ亦難く被思候。然れば將來大事業を成んと欲せば亦大準備ヲ要するハ論なし。就而ハ先づ米國でハ尤も有名なるハバート大學(Harvard University)ニ入り全科ヲ卒業スル乎、或ハ文學部か社會學部ヲ卒業して其學位を得ば余の働上ニ便利ヲ與るのみならず余の視察上及學理研究上ニも種々の利益ある事ト存候。今迄の通ニスルト學識を得るも併し學位ハ得られずかつ神學校故余の目的ニスルト聞エ如何やと被考候。ハバート大學の事ハ尋問中なれ共、若し入學試験ニ是非グリーキトラテン語を要し候へば此二ヶ國語ヲ學ブニ一ヶ年半間かゝり入學後卒業迄ハ四ヶ年かゝり申候すれば今より五年半當國ニ留ら

ざる可らず。併右二ヶ國語なしニ（日本人故殊別ニして）入學出來候へば來ル九月より入學スル故今年ヲ除イテ四ヶ年半かゝり申候。之は余ニ取テモ汝ニ取ても随分難き感情あらん。實ニ余モ今迄自ら一事ヲなしかつ三十ヲ越へ異郷ニ在りて血氣の青年ト競争スルハ骨も折れ情もある御前の事情は素より十分察しをる。併し my Dear^ヨ！吾儕の生涯は何。希望ハ何。往古より大事業を成就せし人々の忍耐困難は如何ニ豈區々として朽つべきものニあるべけんや。

今余がコノ大學を起し必ず其目的を達せんとせば五年の準備尙不足を感ず。

思ヒ見よ余の生涯は是迄萬事速まりて失敗を取る事多し。汝ト結婚も速過ぎ其他事業も（人は成功ト云ハン）。併余の準備不足なりし爲十分に事成らず然れば今一度の奮勵實ニ必要ならずや。余がコノ奮發ヲ爲さば歸朝の切ハ學識と經驗ト準備の品格ト學位を携へ歸へり其事業ニ就くことを得ん。然れば御前も今一層の勇氣を振ヒ犧牲の精神を興シ忍耐ありたし。余ハ之ニ付てハ思考中なれど殆ど決心せり。

尙ほ御前ニ相談して確定せんとし右申陳候。至急御説越さるべし（祕密ニなすべし）。

過日ボストンニ至りコールビー氏ニ面會せり。また牧師會及ア

メリカンボードニ至り種々の人物ニ面會せり。また先年日本ニ來りし學者ジヨセフ、クツク、の演説も聞けり。其よりケンブリジ（ハーバード大學のある處）ニ至りレビット氏の母親妹姪杯ニ面會セリ。實ニ善イ人物が多し。是迄田村の米國の婦人を讀ミ米國社會はかくあるべしと豫想せしが當マサチューセツ州並ニ東部ハ全く異り、決して然らず。女學校杯で教師大に注意し男子トの交際ハ嚴重ニセリ。また教會でも青年男女が互ニ手を携へて歩行し或は同じベンチに腰をかける○尤も西部は田村の云フ如き有様ならん事も見ず其點ニは餘り惡處を見ず。併し随分批評スベキ他の事見候。又種々余が目撃せし面白き談もあるが他日歸朝後ニ相語るべし。

新潟の事氣ニかゝり申候。澁谷松田等より書狀來る筈なるニ未だ一度も來ぬ。新潟より通信せしもの一人もなし。故に御前より青柳等ニ書狀を遣し委細新潟の模様御聞取りの上、御通知被下度候。實ニ々々日本よりの書狀ヲ待つ事ハ譬るものなし。殊ニ御前よりは新潟の事聞度し。通信ハ郵便船の出る日定期居る故其二問ニ逢ふ様ニ御差出有之度候。

余「アンドヴー」デ共ニ社會學レクチャーヲ聞ク同級生はデフレスト位の頭ハゲタル人々も随分有之。其他大抵三十歳前後の學生（大抵ハカレッジ卒業生）妻子のある人々もあり。

レビット氏スカッター氏も實に親切極る。

出来るなら梅花女學校の寫眞ト新潟女學校の以前取りし寫眞を御送り被下度候。金の出來次第でヨイ。

余の荷中にありし「シヲリ」ハ誰が呉レタノ乎。

洗濯物ノ事ニ注意被下難有イ。毎月曜日毎ニ洗濯物ハ其場處へ出しをくとミナ洗て呉レル。西洋寢衣ネキヤ二枚レビット氏妻君作り呉レタ。多くの小兒あり金モそふないと察するに誠ニ氣の毒ニ思ふ。

余の何日ニ認めし書狀受取る日御通知を乞ふ。

御前は余の歸朝後大學の専門科ヲ教る準備出來たら至極と存候。それは裁縫、日本禮式、編絲、茶、ハウススキーピン等手のわざ家事等也。之ハ御身の健康の爲よろしく存候。學事ハ一際禁物の方がよい。五年間手のわざをけいこ被成候へば随分上達して立派な先生となれることと存候。お前の最必要の事は家ヲ治ること將來吾儕は己のホームを造り模範とならねばならぬ。今日は其のみ。河村皆々様へよろしく

二月十四日

成瀬仁藏

万寿枝どの

書
(二) 白木(麻生) 正藏宛(於米國)

愛兄よ在越中ハ一方ならぬ御厚情を蒙り難有奉感謝候。

早速愛兄初御地の親友ニ通信仕度精神十分なれど萬事事新しく種々會ニ臨ミ或はヴジチング或ハ招れ或は讀書シ考ふること書くこと實ニ心中も身體も多忙ニてかつ通信す可き處澤山ニて仲々意の如くにならぬ御察被下度併愛兄よりハ度々御通信願度候。如何となれば余ハ當地ニ着せし以來僅ニ今日で二十六日間なるが仲々長く感ずる。それ日々日本より(殊ニ家内よりのト新潟よりの)報を渴望致居候へ共家内よりは已に二通來り(大慶)しが御地より未だ一通をも受取らず殊に澁谷君松田君には屢々弟よりは書きたるも未だ一度の返書なく誠に失望ニ不耐候。其由余の親友へ御通知被下度候(殊に松田ト澁谷ニ)。

扱て余の航海は誠に好都合にて内貳名のクリスチャンアリテ親友トナリ其他建野全權公使ハ前より知合の人にて随分遊ビ連れ嘶友達ありて種々の慰もありかつ進行も早く十二月の内(卅一日)ニ米陸ニ着せり。併し弟ハブアー、セーロー、で三日間は飲食も出來ず至つて苦痛せしが四日目よりは海ニ慣れ随分愉快なる日日多くありし。正月一日二日ハ桑港ニて費し市中を見物し或ハ人々を少シハ尋ねしがマテリアル、ワールドの盛なるには一驚を契したり。三日には彼地を發しロツキー山を越へシカゴ市、ナイヤガラ、フオール等を歴て十日の早朝ポストンニ着

せり。シカゴ、ボストンの盛なるは中々余の豫想とは大ニ異なり種々吾心を撃ちしもの日々其數を知らずスカッター、其他余の舊知己ニ隨分面會せしが實ニ余（を脱カ）して故郷ニ歸へりし思を起さしめ當地ニ來りし以來此上無き喜なりし。

未だ日も淺く十分當國の事情ハわかぬが是迄の想像トハ大ニ違ふ事隨分多し。愛兄よ、日本では日本人、大日本國ト威張てをつたが中々氣の引ること残念ナこと憤激スル事が多い當から見ても人民の強大ニ熱心事を取る事から考へても智識上よりイツテモ中々恐縮スル事屢々なり。併し幸に吾輩大和魂ト宇内上帝の眞理を慕フの精神を有するが故ニ希望ト奮勵萬事ニ勝たしむることを覺ゆ。また是迄なき快樂を覺ることもあり。是實に好人物偉人物ニ逢フノ事也。奇談快談澤山ニあり（余船中でイタリヤ人ト爭ヒシ事瀛車中で白人（多分米人佛人）と爭論せしこと事實の相違で從業員ポータート辯論せしこと人々余を見て支那人ト見或ハ獨逸人トナシ或ハトルコ人と思ヒ或は輕蔑を受ケ或ハ敬愛を受け種々の奇談道中にてありし。之ハ何れ歸朝後膳の上の笑噺として貯へをくべし）尤も余をして満足せしめたるは過日ボストンの慈善家カツミツント申ス七十八年の老人ニ合ヒシ事也。彼ハ已ニ六千五百人の孤獨ヲ救ヒ之を教育し有爲の人物となしたる人なるが其事業を

見ると彼ハ眞ニ博愛家ニて彼の心ニも體ニも自然の愛情溢れ彼がかゝる業を取るは自然也と思はしむ。余ハ初めて面會せしが其愛心深きニ大ニ感じ余（を脱カ）して吾父ニ邂逅したる心地せしめたり。余ハ彼と二日間暮せしが屢々（其演說中祈禱中）余をして感涙ニ耐エザラシメたり。又過日はボストンの牧師會ニ臨ミ種々の人ニ合ヒ感ズル處多シ。牧師ハ大抵白髮の老人多シ。善人物も隨分ある。其内ユニテリアン教師の演說も聞イタ。神學上問題ハ隨分盛なる様ぢやが先づ大抵固き「ロードツクス」ヲ固執ス。又先年日本ニ參りしジヨセフ、クツク、の演說も聽聞した。中々盛ンジャ又南北戰爭の時非常ニ働（看病婦トナリ）て有名なるミツセス、リバー、モアと申ス七十餘の老夫人の演說を聽たが隨分博學、能辯、威嚴、感服スル處多シ。併し直接交際せざる爲ニ人物は未だ判然せぬが先づ日本では見エヌ人物、其他ホーム、社會、工業、等少しは分るが、種々の感情興る。

種々御咄申上度も時之を免さず。小弟はアンドヴァー神學校（新島先生の卒業せし處今増野、村井の居る處）にて社會學士タツカート申先生ニ就き社會學專修の積又ライブラリーで教育學其他必要の學を脩むる積でやつてをる。併し將來少々變更する處あらむ。

阿部君によろしく。書狀を書くこと今六ヶ敷い。愛兄よりよろしく。其他フレンドへよろしく。阿部妻君ニ（已ニ余よりも問合候へ共）在京中ハ通信女學の事失念致候故小生が受取りし金員至急報道ある様御傳被下度候。

余の諸フレンドへ是非早く認めてはと御傳（御すゝめ）被下度奉希候。御地模様善惡とも悉く御通信切ニ奉願候。

草々

不悉

二月六日

成瀬仁藏

白木正藏愛兄

(三) 白木（麻生）正藏宛（於米國）

過日來大ニ君の返書をまち已ニ來るべき時過ぎ大ニ失望致居候處四五日を歷て船便の時ならずして突然愛兄よりの音信ニ接し天よりまなの降りし心地せり。

種々吾愛地の模様御通知被下誠ニ難有存候。愛兄ハ増々元氣ニ多望ニ御奮勵實ニ結構ニ奉存候。小弟は當時は大ニ此地ニ慣れ候へ共尤も氣にかゝるは家内の病併し當時ハ大ニよろしき由また他之助は近々歸朝すれば其後ハ大ニ安心可致と存候。また新

瀧女學校其他吾日本の事は日夜余が心頭を離るる事能はず。弟は國を去て實ニ々々己を忘れ國を思ふの念盛ニ犠牲の精神國を救ふの義務等交ミ吾心を勵し一日も重荷をヲロス事ハ出來不申候。實ニ愛兄よ。お互ニ生命を終る迄は協心懔力吾國ヲ救ハネバナラス。余は種々計畫スル處有之候共何れ兄らニ面會の節相計り一大團隊ヲ編み吾人の勝利を得吾日本ニ永生ヲ得せ度希望ニ不耐候。お互ニ今ハ準備の日也目前の小事情に妨られず……愛兄の御計畫ハ如何（準備の）。是非洋行スル積り乎。其利害得失は已ニ御承知なれば弟の愚見ヲ申スニ不及候。旅費丈は出來る方法ありや。又愛兄が少支度スレバ大學のスコラーシツプヲ受け勉學の道ハつくと相考候。又神學校なら尙ほ方法安く相付く事と存候。愛兄の目的ハ哲學なら神學校でも學ぶ事六ヶ敷き業ニあらざる乎と存候。愛兄の御考次第小弟の及ぶ丈は御周旋可仕候。併し弟の考にてハ爾來は米人の補助ヲ受る事ハ好まざれども（如何トナレバ日本書生ハ大抵スコラーシツプ或ハ米人のチャリチニ由てやつてをる。是れ日本の價値ヲ落しか（つ脱之精神上ニも害がある）洋行ノ利害得失も十分お考を乞ふ。

弟は過日來多くの牧師其他有名の人々ニも面會せしが中ニは随分感心ナもの眞ニ余が心をインスパイヤヤ否或は感動させるも

のあるが多は通常の人物也。米國の教會を治るは左程六ヶ敷なけれど、もコンヴァートスル事ハ日本より更ニ六ヶ敷事大ニ人心頑固ニもあり無關係ニもあり耳慣れて感覺至而鈍し。過日ヒリッブス、ブルークの説教ヲ聞き彼ニも面談せしが人心を感動し集纜(字ヲ忘レタ)するの勢力あり。

米國學校の德育ハ全くキリスト教ぢや多の大學ではやはり宗教自由ぢやがやはり祈禱會、有名の人々の説教、すゝめ等が道德ヲ養フの力、今は智育ニ偏し德育は左程力なきの感あり。女學校は規則で宗教ヲ聞せをるまた有名の説教者ヲ招いて説教を依頼致居候。女學校ハ全く女子の薰陶管轄にて男子の助ヲ仰ぐ如き事ハ更ニ無之候。女子は中々進歩の著きを見受申候。

余が過日ウエズレー女子大學で觀察した略記女學雜誌へ一寸報知致置候。故御一讀被下候へば略々米國女子教育の槪況分る乎と相考申候。

新潟女學校の爲ニも間接御助力あらん事切ニ冀望ニ候。澁谷君を勵し呉られよ松村兄ハ何如ニ御決し候や若し當地へ望ミあらばよろしくお傳へ被下度候。

篠崎君は誠ニ結講ニ存候。

阪口貞(過日玉木ト卒業せし娘)は其後如何致せしや、御承知なら御序の節御通知を乞ふ。新島公義君ハ長岡へ參り新潟教會

の一女子トベトロージしたそふぢやが其娘は誰なるや御報知ヲ得度存候。

其他御通知申上度候へ共何分多くの書狀を認めねばならず其他心せはしく余情は追て可申述く候松田、澁谷、阿部、加藤、新宮、堀、其他吾兄弟へよろしく御傳へ被下度候

草々 不悉

五月九日

成瀬 仁藏

白木愛兒

一昨夜は學校でコソリ村井と日本料理ヲ作らへて食た。米ト牛肉トホウレンソウヲ醬油で煮たが實ニあんばいよくできて甘かつた。米は一升が五十錢位する。野菜も日本の價ト比スレバ八九倍もする。ところがニホイがブン々擴つて困つた、呵々〇是迄エールにて學び居りし市原君來ル九月よりはアンドヴーへ轉校一年間此處にて勉學する決心の由併し仙臺よりしきり歸朝ヲ催スト聞及申候。

四 白木正藏・松村介石宛(於米國)

米國ニも寔ニ立派なる人物がある一事に候。夏中ハ屢々彼のヒリップス、ブクルークス。ニ交り其舉動其答辯等ニより大ニ悟

る處有之。かつ彼ハ卓見、偉人、君子、ニして眞ニ語る處有之
神ニ近く天然ニ和合し眞正ニ自由を得其他種々感服せしめし事
有之候。また米國婦人中其徳高きものをも發見致候。而して今
度病に犯され當校教授らの眞實親切ナル事大ニ表レ候。余の病
めるを聞かや校長ハ直ニ馬車を驅り醫者の宅ニ到其病狀を明に
糾し直ニ余の室を尋ね其手當ニ注意せり。其他諸教授屢々親切
ニ見舞呉れたり。殊ニ愛兄ニ語り度ハ教授タカツ、^(マ、)氏の舉動
也。氏はニューヨークニ牧師タリシ時一萬弗の年酬を受け大ニ
人望を博せる人なりしが當校のプロフェサーニ撰ル、ヤ全會舉
て引止め其住家を新築杯して待遇せしニも係わらず其招ニ應じ
たり。

當時本校の大石柱ニして社會學ニ有名かつボストン其他の社會
上運動を先導し昨年ハ一名を歐洲ニ派遣し其社會上の實況を視
察せし抔し今年ハまたボストンニアンドヴァー、ハウス、を起
し大ニ社會改良ニ盡力せり。氏ハかく多忙なるニもかゝはらず
毎週余一人の爲一時間づゝを費し余が研究を助け大ニ余ノ業ニ
シンパシイを盡せり。今度余病床ニアルヲ聞クヤ直ニ來り醫者
より十分其模様ヲき、當日より今日迄日々余の滋養品を精撰精
製し之を送れり。余ハ寔ニ之ニよりて力を得しを感ず(殿様も
之より勝る滋養ヲ食スルヲ得ズト感ジたり)。また患しき時ハ

日に二度ハ見舞呉れストーブの事より光線、空氣、其他萬端注
意シ呉れたり。余ハ實ニ父の如く感ぜし事屢々なりし。
またレビツト夫婦も大親切なりし。また村井及關(之ハアカデ
ミーの生徒)等實ニ親切ニ看病致呉れたり。併し二週間ハ看病
婦を雇ヒ其世話ニナリたり。米國「レディー」にクソ、小便、
を取らせ足(二行不明)あり。また種々兄らニ語度事有之候へ
共何ぞ面會の節愉快ニ相語度相待居候。

實ハ萬事己の意の如く勉學出來候(今暫時保養ヲ要ス)。余ハ
殊別生又ハ自由として入學せし故勝手ニ何ニても撰フモノヲな
し得可くまた勝手外出もでき、レクチャーは當時はタカツ、^(マ、)の
社會學、說教學、校長スミスの教會史、ハリスの宗教哲學、ト
ンクスの Introduction of New Testament 等を取り居候。重に書
籍館の書ニより自分定むる問題を研究罷居候余情ハ他日ニゆづ
る。

松田、阿部、澁谷、加藤、堀、新宮其他親友へよろしく御傳聲
を乞ふ

十月廿三日

成瀬仁藏

松村介石兄

白木正藏兄

(五) 麻生正藏宛『女子教育』出版に關するもの

拜啓愈々嵩山堂にやらする事に決定致候。實ハ岩本より五月まで待て、普及舎より出版せしむると勤め來候へ共終ニ普及舎トハ破談致候。

就而ハ來ル四日より活字ニかゝり二週間位ニは成就可致と存候然る處「廣告」「ちらし」も十分ニ致さず積りニ御座候ニつき自分ニ己の事を書くも面白からず候間甚だ御面御申上兼候へ共愛兄ニ御筆勞願度候。願くはアトラクティブに御執筆被成下度偏ニ奉肴候。此冬休中ニ願はれ候へば此の上もなき仕合せニ奉存候。

○細川氏の序文ハ已ニ普及舎より木版屋の方へ廻はし只今彫刻中によしニ御座候。

○嵩山堂も東京の店追々盛大ニ赴き候よしニ御座候。
右御依頼申上度如此ニ御座候也

十二月卅日

草々

仁藏拜

正藏愛兄

(六) 麻生正藏宛(女子大學設立運動に關するもの)

當地は略相纏り候間昨朝より上京スル積の處食當りの爲兩三日後れ申候。

今度上京東京地方を相纏め直ニ發表の運に可至と存候。就而ハ當地の兩新聞は大に應援スル事ニ相成候間甚節は小生より御報道申上候間、御出版被下度候。而して大ニ輿論を惹起す様致度候ニつき種々御腔案の御準備願度候。

愛兄を聘ス事の發表は可相成ハをそく致度候間左様御承知願候。實は今度梅花女學校を離るゝニついては種々混雜を生じ候へ共萬事略々方付申候。之よりハ種々の嫉妬を受ける事ある可しと存候。折角御自愛。

東京は銀座一丁目七番地西本方ニ止宿可致候

七月廿二日

成瀬仁藏

匆々

麻生兄

(七) 麻生正藏宛(女子大學設立運動に關するもの)

拜啓伊藤侯昨日到着され大隈伯ハ本日歸京するよし政界も少し面白く成りかゝりし様相考候。

九鬼男ニは一昨日面會致し大凡三時間談話致し大ニ賛成を表され盡力し呉れらるる筈而して發起人の中に加盟されたり。何れ

委細ハ歸阪の上可申述候へ共右のよし一寸中川君へ御傳へ被下
度候。

小生ハ兩三日を待ち伊藤大隈ニ面會の上出立致度と存候歸途ニ
は沼津の大山候名古屋の市原等を尋るの考ニ有之候。
餘事ハ面會の上可申述候

九月六日

匆々

仁藏

拜

麻生兄

(八) 麻生正藏宛(女子大學設立運動に關するもの)

拜啓原稿早速御廻はし被下難有奉存候。横井君へハ小生よりも
御禮可申述候へ共愛兄よりも御面會のせつよろしく御傳被下
候。

「天地人」寄書の事に關してハ村井より別紙の通申越候間御目
にかけ候。

先夜内海氏ト夜深更ニ至るまで種々内閣組織等ニ關し話致し又
學校の事も相談致申候。

簡書

然ルニ若し小生が一時ニても他ニ職を取ル様の事をしてハ此業
ハ破レルならんと被申候。而して今度内閣組織出來上り候ハ、

又々上京運動ニ着手す可き旨被申候。

廣岡へハ今夜位參らんかと相考居申候。

中川君ハ何日頃上京すると申居候や

一月六日朝

匆々

仁藏

拜

麻生愛兄

(九) 麻生正藏宛(女子大學設立運動に關するもの)

拜啓早速御送附被下落手致候。

今日中川君より至急上京すべき旨通知有之候間岡山を濟次第東
上可致候。

別紙原稿御送り申上候間一は論文體ニして太陽へ出し一ハ演說
筆記として公報か或は時論ニ出し又先日平安女學校ニ於て爲せ
し分は女學雜誌に寄草する事ニ致度候間直に御筆勞奉願候。

小生可相成ハ上京の際一寸御立寄可申若し其義六ヶ敷せつは東
京の方へ御郵送願度候。

小生の岡山ニ於る演說の終の方ニ述べし精神をもて今度ハ可相
成は寄附ニ着手してハ如何と存候。大兄にも御妙案あらば御通
知願度候。

土倉君もまだ——廣岡氏よりの原案もまた來ぬ。

四月十四日

仁藏

草々

麻生兄

四月八日夜

仁藏

拜

麻生兄

二白玉木氏ハ帳簿ニ記さぬが（之は越後に参りし時可成遅く記
ス方得策との事）五百圓は出す積のよし。

(十) 麻生正藏宛（女子大學設立運動に關するもの）

拜啓小生事昨日着致候。是非一寸御尋申上希望の處御地は非常
の雜沓ト他ニひまどり終ニ失禮致候。

昨日は松村中川兩氏と面會種々相談致候。
兩氏も小生の決心ニ賛成致候間此際十分計畫を立て打出度希望
致候。

今夜は中川君ト相談の積ニ御座候。而して多分中川君の招ニ應
じ明日よりは祕書官々舎の方へ移り世話ニなる考ニ有之候。例
の兩原稿ハ是非熱心ト精神でやり通すニつき論文（之らの計畫
につきの材料御考案有之候はゞ可相成ハ至急御廻はしを乞ふ。
廣岡氏よりも一の原案到着致候へ其實ハ小生の考をもてやり通
す事ニ致しては如何と相考申候。

委細ハ後便ニ可申述候

就而ハ愛兄ニも直ニ御上京を願ふ方よろしくと相考候間ぼつ
（ぼつ脱カ）御出發の御準備被成下度候（其下宿を廢し當分ハ
當地ニ御住處の事にして）。而して電報か書信にて次ニ御一報
のせつは直に御出達願度候。御出のせつは一寸大阪まで御出被
下小生宅ニ寄附金募書一册殘しあり候間末（下女）ニ御命じ御
受取の上御持參被成下度候。兎も角も準備次第募集ニかゝり度
と切望致候。

草々

草々不一

四月十五日

仁藏

拜

麻生大兄

(三) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に関するもの)

今日一寸當地へ参り候二つき是非御尋申ス積の處何分時期も移
りかつ大雨故其意不得候。先日來御申越の件承知仕候。

日本女子大學校趣旨書持せ候間有坂忠平氏へ可成至急御渡し被
下度候。其内三册丈發起者賛助員等の姓名有之他ハ無之候故其
よしも御申傳被下度また本日は有坂君ト夕飯を食スル積りの次
第と急ニ歸阪の必要生じ中止致候間此段御話し被下度候。廣岡
淺子は一昨年歸阪され候故基内御通知申上候間一寸御來阪被下
度候其節萬事御話し申上候

成瀬仁藏

七月十五日

麻生兄

(三) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に関するもの)

先日は御苦勞ニ奉存候。

扱小生ハ一昨日より大和土倉氏方へ参昨夜深更ニ歸阪致候。

東京よりハ「少々差支有之追々延引……………品ニよりてハ三
月まで延期するやも難計」と申参候就而ハ澤山の十年期濟ミ次
第出立致度と存候。
其までニ神戸須磨の方へも参り伊藤侯並ニ廣瀬等ニも談度件有
之候。

何れ出立の日決定次第御通知可申候。

先日御依頼の文至急(乍御多忙とは察)御廻はしを願上候實ハ
明日一日と相成候

匆々

仁藏

二月十八日

麻生兄

(三) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に関するもの)

種々御注意被下難有奉存候。先づ *Soft* は好都合ニ御座候今
度ハあらまじ賛成員等も相纏め下らば歸阪後發起人會を至急相
催し可成速ニ發表に至り度と存候。

多分十日頃ニは歸阪致度候へ共只今確定致難是非愛兄の御出立
前一寸御目ニかゝり度候間若しをくれ候様の事あらば其よし申
上候間其中迄兩三日位御待ち願度候。

委細は御面會の節申述度候。

先達而大阪人士ニ訴る文ハもう少し大阪の人々ニ感動を豫ふる又了解の出來ル様草すべしの話ある故ニ暫く延ばし居申候其二ついても御腔按置きを願度候

匆々不一

三日

成瀬仁藏

麻生愛兄

(五) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に關するもの)

今日前神其他幸之助ニ面會致候處、態々東京よりも澤山故牧師十年期セラブレーションの爲ニ來ルニ小生ハ殊ニ澤山の親類とでも言ふ程の關係あり。而して澤山の親類とてハ「イサ」の外ハ是といふもの無之(一人も)故是非一週間延ばし其會ニ列れとの勤告……若し小生が其のすすめを入れず(事業の爲)出發する時ハ誤解さるるの恐あるのみならず素よりも澤山君に對し何ト方都合つけば留り度相考候間東京の教育演談會の模様によりては或ハ之ニ列スル事トせんかと種々考案中ニ御座候。就而ハ東京へ聞き合せ候故或ハ十二日立たぬかも難斗候へ共兎も角愛兄ニハ其の支度被成下若し東京より返事有之是非十二日ニ立つことに相成候へば直に電報にて可申上候間其節ハ十二日の一

番二間ニ合様ステーション御出被下度候。而して東京より電報參らざる節は暫時見合せる事ニ致度候。要用而已

二月九日

仁藏

正藏兄

(六) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に關するもの)

拜啓小生ハ明日は須磨へ參り廣瀬氏ニ面會多(分脱也)午後一時までニは歸阪可致候。而して十二日頃土倉君來阪、其上にて十三四日ニハ是非上京致度候間御地へ立ち寄るの閑有之や否無覺束候間かつ廣岡夫人及小生と愛兄三人にて相談致置くの必要も可有之相考候間明十一日午後二一泊がけにて御來阪被下間敷候や然れば大ニ都合能く相考候尤も大隈伯の………分及其他(伊藤伯の分ハ少しハ後れてもよろしく候)未だ出來不致爲めニ非常に御多忙ならば如何様に被成候も大兄の御考ニ任せ候。併し明後十二日一日中拙宅にて被成候てハ如何。若し明日御出被下候ハ兎も角演説、文章の草稿(半出來にて)御持參被成下度奉希候。

此書着次第否や御回答被成下度候。

一月十日

草々不一

成瀬

麻生大兄

(七) 麻生正藏宛 (女子大學設立運動に關するもの)

拜啓貴書難有奉存候。

其後御通信可申上筈の處何分多忙寸暇を不得日々奔走致居り大ニ延引仕候。先日來地方順廻の處昨日歸港致し明後日早朝より發足歸京の積りニ御座候。當地も水害の爲人氣宜敷からず候へ共其割合には都合よく相運申候。

大兄の御退職の事情大ニ御察申候實ハ小生ニ於ては此事業の成ることを信じまた大兄を聘スル事を決めまた其内上京を願ふ考ニ有之候處素より今日責任を負ふて契ふわけニ參らず候故萬一此事業にして成立たぬ節大兄をして一時困らしむるを恐れ實は設立確定の日を待ちつつ遷引致し候次第ニ御座候。

併し大兄も此事業を創立スルの一人と相考候故素より幾分の危険を犯し盡力願度候間若し大兄ニ於いて其邊御承諾被下候へば今直ニ御辭職創業ニ御助力願度希望致候。

尚ほ上京後委細御通知可申述候。要用而已

匆々

十四日

仁藏

正藏兄

簡書

(六) 澤山保羅宛 (郡山)

一金三円御送被下候正ニ落手仕候。また其他之贈物届き申候間様御承知可被下度候。

また御尋ね申上置義御返事被下難有奉存候、もしグリーン氏出來ざる節ハ宮川兄にて御依頼旁々申上考候。またゴールドン氏之成る事出來ざるや [] 申上候や、また大阪にある宣教師 [] 免狀 [] 追々はこび不申や [] 御序之節御報知可被下候。先は用事望迄 草々

十日

(七) 谷川熊五郎宛 (於米國)

拜啓其後は打絶へ御無音仕誠に申訳無之存候。 [] 常々多忙なると交際之繁雜なるに隨ひ寸暇を不得大に失礼ニ打過申有之候。青年之頃 (今も不相交青年) は先生之御教導に預り奉感謝存候。小生は当時当校に於て専ら社会学研究致居り傍ら当國の教育、社会等視察罷在候。来学年はオヴリン大学に帰り、其次は「シカゴ」に參り、世界大博覽会之 [] 殊ニ世界婦人の進歩に付き行究之積に奉存候。扱て小生ハ深く澤山保羅氏と交り [] 運動致居り候ニ付氏之伝を綴る (英語にて) ことを相助み已に

過半成就致候も実は氏之幼稚之経歴は不存、甚た遺憾に感居申候。就而は甚だ申上兼候へ共、先生ニ御筆勞を願ひ馬之進君之幼稚之時よりの奇談、出来事習学其他書状行為等凡て氏に聞スル履歴御蒐集成被下度願度候へは氏の伝を英語にて著はし候ハバ日本之榮譽と可相成まつ小生帰朝後日本語ニ翻訳可仕と存候。何卒御両親或は御親族へも御計り之上凡て先生之御手に出来ル丈の財料御蒐集之上御送附被成下候へバ幸甚之至ニ存候。甚だ御多忙恐入候へ共実は過半出来可成速に出板致度候間先生の時間のゆるす限りハ速に御着手願上仕候。若し先生之非常に御多忙の節は御舍弟様にでも御依頼被下候へば誠に難有奉存候。準備の都合有之候間右之御依頼ニ付諾否大凡何時頃迄ニは御送被下候御見込なるや一応早速御返事被下度願上げ候。御両親様へよろしく御伝声奉願上候
先ハ右要願のみ□ 草々頓首

五月十七日

米國 成瀬 仁藏

谷川 先生

余の住處は左ニ記し申候

Rev. Z. Naruse,

Andover Theo. Seminary,